

2022年3月10日

質問1

機会原価が理解できなかったので、説明してほしい。

11回、12回に出てくるのであれば、それからでも大丈夫です。

回答：機会原価とは、特定の目的を達成するために犠牲にされる経済的資源を、他の代替的目的に振りむけたときに得られるはずの最大の利益額にもとづいて測定した原価のことである。

投資案1の利益80 > 投資案2の利益50 > 投資案3の利益10

利益80	←超過利益30	利益50 =機会原価50	利益10
犠牲にされる経済的資源 投資額100		犠牲にされる経済的資源 投資額100	犠牲にされる経済的資源 投資額100

## 質問 2

### 製品原価計算

1) 原価は、全部原価、部分原価

2) 原価計算は、全部原価計算、直接原価計算（範囲の話？）

となっていますが、1) と 2) の関係が分からないので教えてほしい。

すみません。頭で整理ができなくなってしまいました。

（もう一度音声聞いてみます。）

### 回答：原価計算基準四(三)

原価は、集計される原価の範囲によって、全部原価と部分原価とに区別される。

全部原価とは、一定の給付に対して生ずる全部の製造原価又はこれに販売費および一般管理費を加えて集計したものをいい、

部分原価とは、そのうち一部分のみを集計したものをいう。

部分原価は、計算目的によって各種のものを計算することができるが、最も重要な部分原価は、変動直接費および変動間接費のみを集計した直接原価（変動原価）である。

### 原価計算基準三〇 総合原価計算における直接原価計算

総合原価計算において、必要ある場合には、一期間における製造費用のうち、変動直接費および変動間接費のみを部門に集計して部門費を計算し、これに期首仕掛品を加えて完成品と期末仕掛品とにあん分して製品の直接原価を計算し、固定費を製品に集計しないことができる。

この場合、会計年度末においては、当該会計期間に発生した固定費額は、これを期末の仕掛品および製品と当年度の売上品とに配賦する。

全部原価計算は、全部の製造原価に基づいて製品原価を計算するのに対して、

直接原価計算は、固定製造原価を除く変動原価(最も重要な部分原価)のみを製品原価として計算する点で異なる。

質問 3

製品原価と期間原価

質問 2 が分かったら理解できると思いますが、今のところ分かっていません。

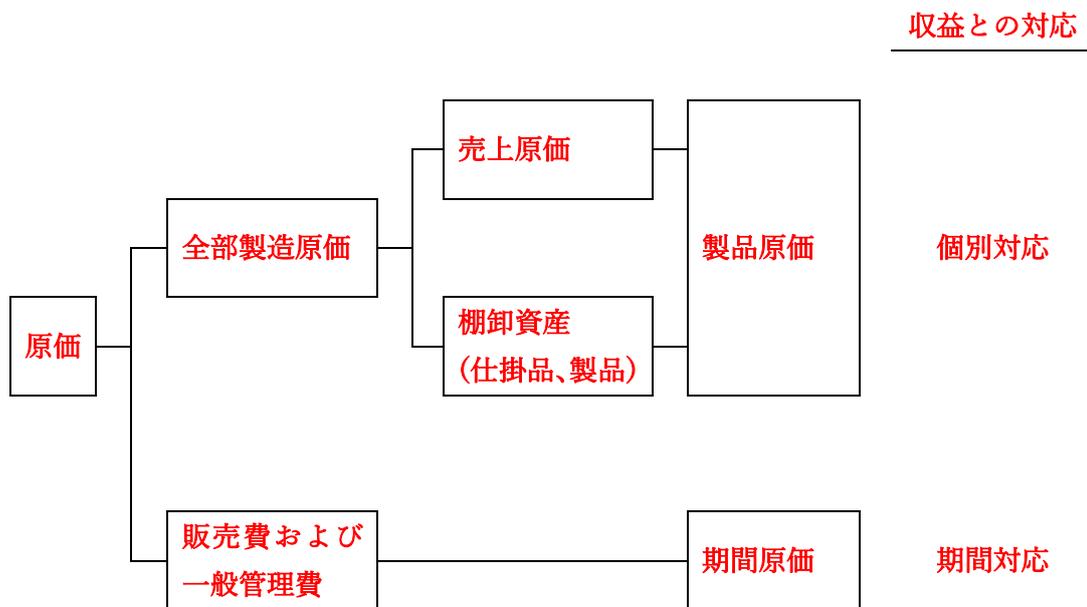
回答：原価計算基準四(二)

原価は、財務諸表上収益との対応関係に基づいて、製品原価と期間原価とに区別される。

製品原価とは、一定単位の製品に集計された原価をいい、

期間原価とは、一定期間における発生額を、当期の収益に直接対応させて、は握した原価をいう。

製品原価と期間原価との範囲の区別は相対的であるが、通常、売上品およびたな卸資産の価額を構成する全部の製造原価を製品原価とし、販売費および一般管理費は、これを期間原価とする。



質問 4

Point up lesson1 は、

原価計算基準を前提をした場合、直接原価計算を前提とした場合で答えを出すのですが、この見方でテキストをみると、どこをみていいのかわからなくなってしまったので、おしえてほしい。

回答：原価計算基準を前提をした場合＝全部原価計算を前提とした場合

<u>全部原価計算</u>		<u>直接原価計算</u>
製品原価	直接材料費	製品原価
	直接労務費	
	変動製造間接費	
期間原価	固定製造間接費	期間原価
	販売費・一般管理費	

全部原価計算では固定製造間接費を製品原価にしますが、直接原価計算ではそれを期間原価とする点で両者は異なります。

－以上－